

イノベーション to 在宅医療
第3会場-1

大学 × UR × 行政 × 自治会による 豊明団地地域包括ケア

主講演者 都築 晃
藤田保健衛生大学 地域包括ケア中核センター 講師

副講演者 近藤由紀子
愛知県豊明市高齢者福祉課地域ケア推進係長

伊藤 宏泰
独立行政法人都市再生機構 中部支社 住宅経営部
ストック事業・ウェルフェア推進チーム 主査

話の流れ

豊明の地域特性と背景

都市再生機構として

豊明市行政として

豊明団地における取組み

藤田保健衛生大学として

愛知県 豊明市

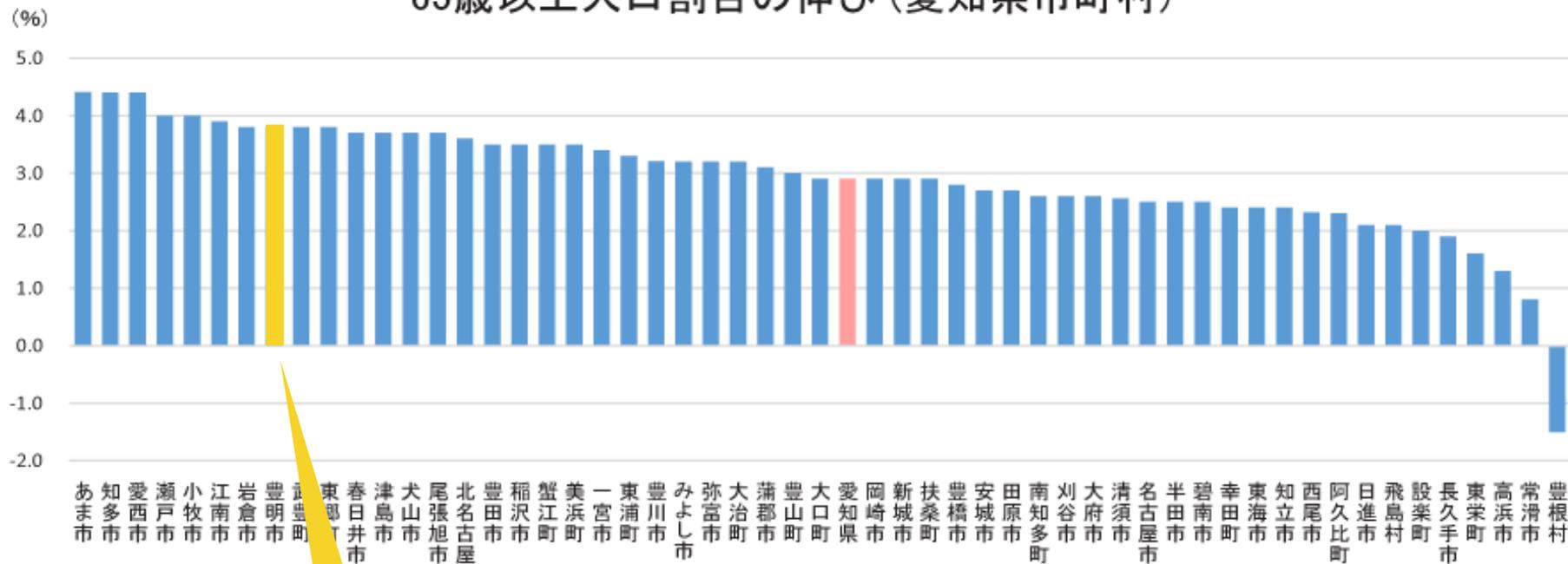


藤田保健衛生大学

人口 / 68,448
高齢化率 / 23.6 %
愛知県平均 21.4 %

豊明市の高齢化

65歳以上人口割合の伸び (愛知県市町村)



豊明市

人口 68,448

高齢化率 23.6 %

- ・ 伸び率は県内 54市町村中 8位
- ・ H 25から市内総人口は減少に転じている

豊明市の医療・介護資源

医療資源

- ・ 病院 3、診療所 39、歯科 39、薬局 25
訪問看護 4、訪問リハビリ 4
- ・ 関連師会 東名古屋豊明医師会
愛豊歯科医師会
日進東郷豊明薬剤師会

介護資源

- ・ 地域包括支援センター 2（委託）
特養 4
老健 2
小規模多機能 2
認知症対応型共同生活介護 3
24時間定期巡回型訪問看護介護 1
居宅介護支援事業所 10



藤田保健衛生大学病院

許可ベッド数	: 1,505 床
平均在院日数	: 16.2 日
平均外来患者数	: 約 2,100 人/日
医療従事者	: 約 2,600 人
年間手術件数	: 約 11,000 件
年間延べ入院患者数	: 約 450,000 人
年間退院患者数	: 約 24,000 人
退院調整室依頼数	: 約 1,400 件

藤田保健衛生大学

▶ 教育施設



- ・ 藤田保健衛生大学
- ・ 藤田保健衛生大学看護専門学校

▶ 教育病院



- ・ 藤田保健衛生大学病院
- ・ 坂文種報徳會病院
- ・ 七栗サナトリウム
- ・ 救命救急センター
- ・ 中部国際空港診療所

▶ 研究施設



- ・ 総合医科学研究所
- ・ 藤田記念七栗研究所
- ・ 疾患モデル教育研究センター
- ・ 共同利用研究施設

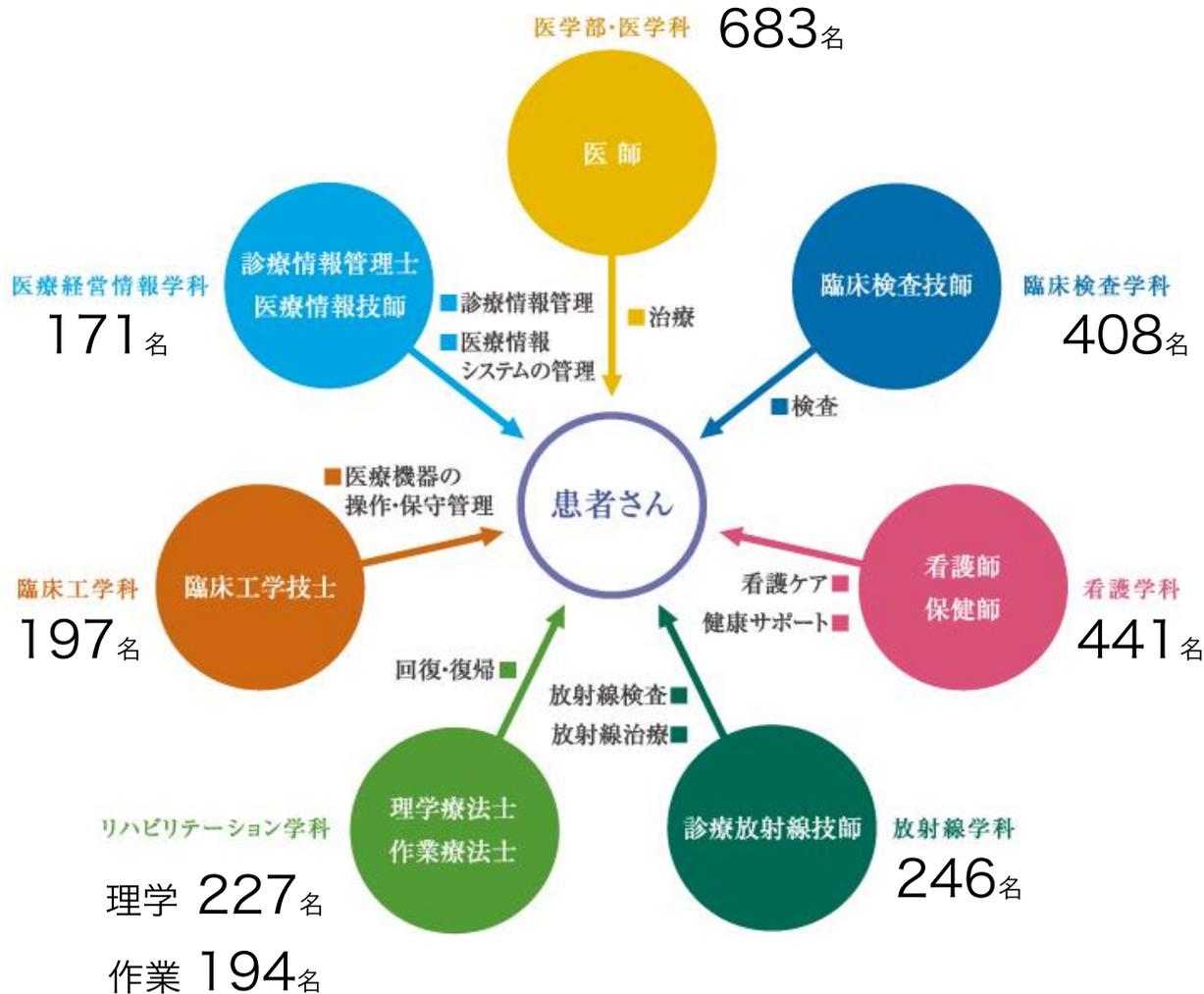
▶ 関連施設



- ・ 地域包括ケア中核センター
- ・ ダヴィンチ低侵襲手術トレーニングセンター
- ・ 低侵襲画像診断・治療センター

藤田保健衛生大学

大学院・医学部・医療科学部



医学研究科博士課程 135名
保健学研究科修士課程 92名



大学と豊明市を取り巻く 背景と課題

背景

- 都市部の高齢者増加
- 生産年齢、年少人口減少

課題

- 在院日数短縮と早期に在宅へ
- 医療・介護連携強化の必要性
- 在宅医療・介護人材育成
- 社会との積極的共生
- 地域包括ケアモデルの確立

統合的解決策としての拠点形成

藤田保健衛生大学 地域包括ケア中核センター

2013年2月1日、全国初「学校法人」による
介護保険事業設置許可

居宅介護支援事業所と訪問看護ステーションを設置

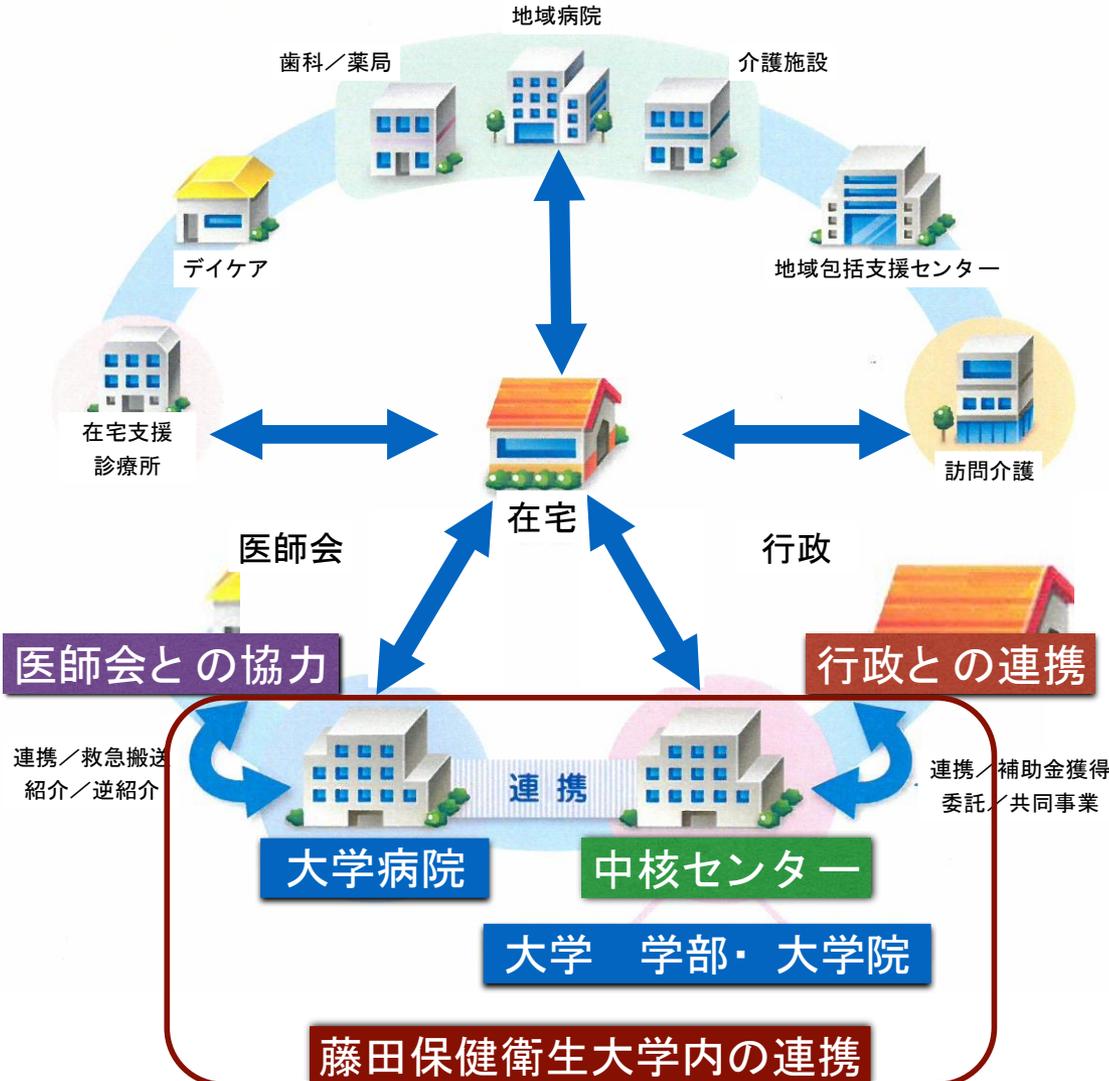
目的：在宅医療・介護の実践と人材育成



中核センター・大学病院・医師会・行政

藤田保健衛生 大学病院

- ◎ 24時間総合救急
- ◎ 高度先進医療
- ◎ 地域指向標準システム
 - ・ 低侵襲治療
 - ・ 即始りハビリ
 - ・ 即応在宅支援
 - ・ 経口化支援 NST
 - ・ 認知症対応ケア
- ◎ 先端回復期リハ病棟
- ◎ 医療連携福祉相談部



藤田保健衛生大学 地域包括ケア 中核センター

- ◎ 人材育成
- ◎ 24時間医療・介護
- ◎ 地域指向
 - ・ 往診医との協力
 - ・ 在宅リハビリ
 - ・ 在宅生活支援
 - ・ 薬剤指導
 - ・ 認知症対応ケア
- ◎ 医師会等との連携
- ◎ 行政・包括と連携

人材育成



- ・ 地域包括ケア在宅医療研究班
団地内バリアフリーマップ作成
独居高齢者約51名との交流食事会
- ・ 実習生 リハ110名 看護112名



- ・ 病棟看護師 同行訪問研修 62名
- ・ 看護師研修 病院新人看護師研修



- ・ 在宅医療人材育成事業(豊明市委託)
研修会4回、延べ212名参加
ケアマネ・訪問看護・訪問リハ 同職種会研修会
研修会1回、36名参加
- ・ 地域包括ケアモデル事業(豊明市協働事業)
体力測定会3回 延べ82名参加 健康教室1回

中日新聞 朝刊 2014 (H26) 年 10月15日(水)



- ・ 見学者
京都府立 近畿大学 北里大学 ほか多数

在宅医療人材育成研修会

研修会 全4回 延べ212名参加

多職種協働による在宅チーム医療を担う 人材育成研修事業

〔藤田保健衛生大学への委託実施〕

- ・プログラム検討会 2回
医療福祉多職種による検討会議
- ・研修会 4回
がん療養、認知症、在宅歯科、薬剤支援
CKDをテーマに講演、グループワーク
懇親会
- ・同職種勉強会 2回
ケアマネ、訪看、訪リハによる



【豊明市委託】2014年度 多職種協働による在宅チーム医療を担う人材育成研修会

医療福祉従事者がお互いの専門的知識を活かしながら、チームとなって患者・家族を支える地域の体制を整えるため、下記のとおり研修会を行います。

参加費無料
申し込みは別紙にて

交流・グループワーク
各回とも、約80分の
グループワークを予定

全4回
1回のみ参加も可能
豊明市の現状報告あり

懇親会
各回終了後に、
軽食を含めた懇親会を
予定

【第2回 研修会】
■日時：10月26日（日）14時～16時20分
■会場：豊明市商工会館

■プログラム
○講演1「認知症ケアにおける病院から在宅への退院支援（仮）」
医療法人 晴和会 あさひが丘ホスピタル 名誉院長 柴山 漢人 先生
○講演2「認知症ケアと在宅にむけての取り組み」
橋狭間病院藤田こころケアセンター 佐藤 真美 看護長
○「豊明市の現状報告2」 豊明市役所高齢者福祉課
○交流・グループワーク「認知症患者の在宅支援における課題と解決案について」
○懇親会 予約制 懇親会（会場にて軽食をご用意します。参加費500円）

【第3回 研修会】
12月7日（日）14時～16時20分 会場：豊明市商工会館
○「歯科診療と在宅支援（仮）」
藤田保健衛生大学病院 歯科口腔外科 松原 浩一郎 教授
○「訪問薬剤指導と在宅支援（仮）」
薬剤師 講師交渉中
○「豊明市の現状報告3」 ○交流・グループワーク ○懇親会（会場にて軽食をご用意します。参加費500円）

【第4回 研修会】
1月25日（日）14時～16時20分 会場：豊明市文化会館キャナル
○「CKDにおける在宅支援（仮）」
医療法人豊水会みずのクリニック 理事長 水野 潔夫 先生
○「CKDと在宅生活につなげる看護」
藤田保健衛生大学病院 看護部 透析看護認定看護師 辻井 しず 看護長
○「豊明市の現状報告4」 ○交流・グループワーク ○懇親会（会場にて軽食をご用意します。参加費500円）

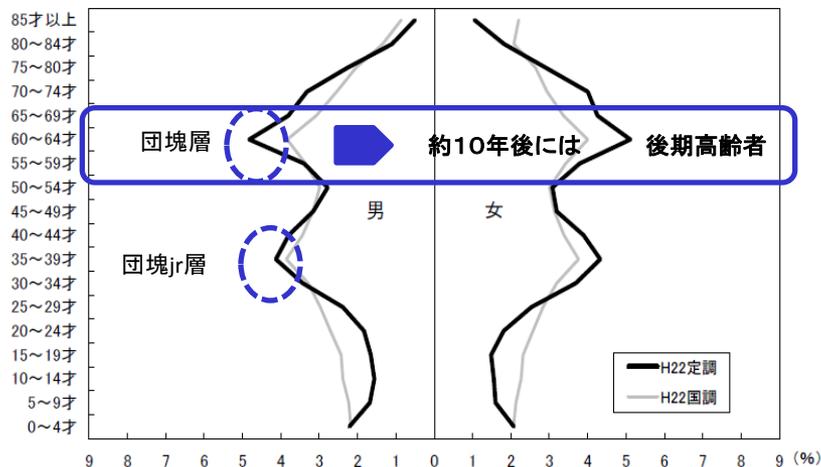
受付終了した研修会
【第1回 研修会】■日時：10月4日（土）14時～16時20分 ■会場：豊明市商工会館

■プログラム
○講演1「がん患者のケアとリハビリテーション-在宅への退院支援」
藤田保健衛生大学病院 医療連携福祉相談部 副部長 加賀谷 齊 准教授
○講演2「がん患者のケアと訪問看護の取り組み」
藤田保健衛生大学訪問看護ステーション 小島菜保子 看護科長
○「豊明市の現状報告1」 豊明市役所高齢者福祉課
○交流・グループワーク「がん患者の在宅支援における課題と解決案について」

【問合せ・申込先】 藤田保健衛生大学 地域包括ケア中核センター 河村・都築
問い合わせ：TEL (0562) 93-3706 申し込み FAX (0562) 93-3705 E-mail kurimoto@fujita-hu.ac.jp

I 超高齢社会におけるUR団地の状況

- 年齢別人口構成の比較 (URと国勢調査)
- 団地 = 日本の超高齢社会の縮図



自立高齢者 348,037(97.3%)	自立困難高齢者 9,620(2.7%)
要支援・要介護認定者以外 294,460(82.3%)	要支援・要介護認定者 63,197(17.7%)
自立歩行 53,577(15.0%)	車椅子使用 7,353(2.1%)
	寝たきり 2,268(0.6%)

⇒URは、高齢化等国の人口構成の特徴を顕著に示す
 ⇒また、高齢者のいる世帯は、全国平均37.8%を上回る
 ⇒一方、97.3%の高齢入居者は、自立歩行可能

⑥家族構成

UR定期調査より

- 平成17年調査で、初めて「単身」世帯が「夫婦+子（ファミリー）」世帯を上回ったが、平成22年調査では「単身」世帯がさらに増加し、全世帯中35%が「単身」世帯となった。
- 「夫婦+子」がさらに減少し、「夫婦のみ」と同程度となった。
- 単身の中でも特に65歳以上の「高齢単身」世帯が増加した。「夫婦+子」世帯は全体的に減少した。

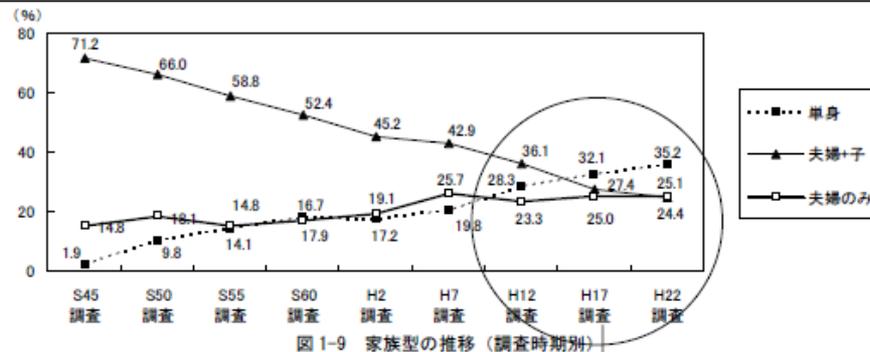


図1-9 家族型の推移 (調査時期別)

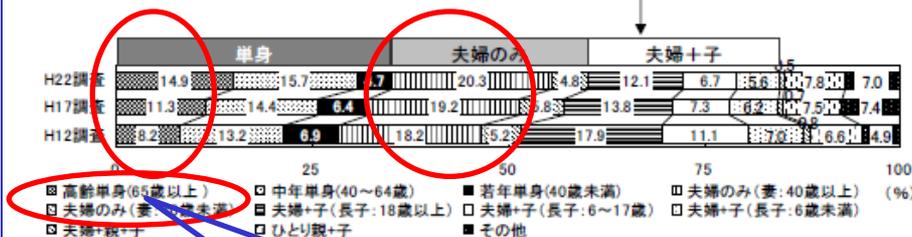


図1-10 家族型の割合

65歳以上高齢単身の増加

⑦年収

- 世帯全体の平均年収は平成17年では505万円であったが、平成22年には484万円に下がった。

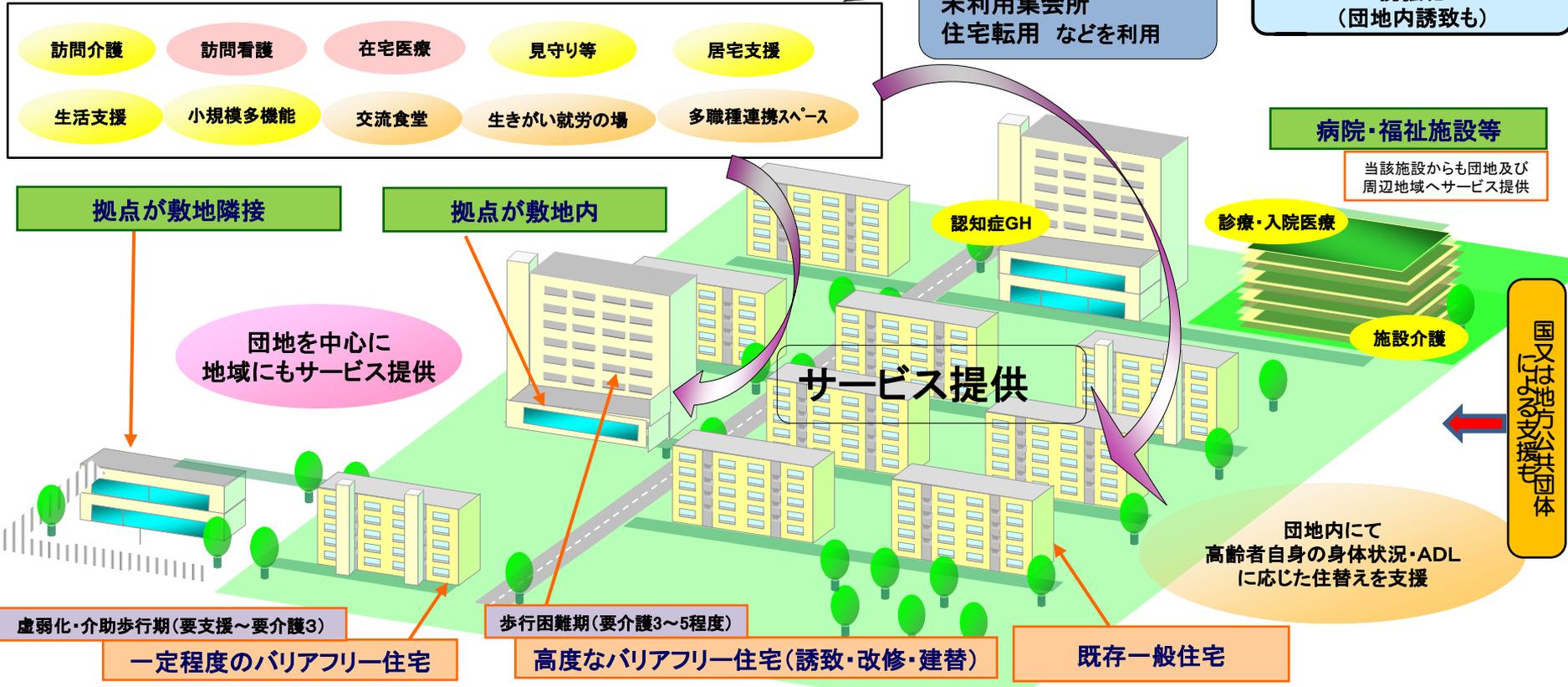
表1-1 平均年収 (調査前年の年収)

	世帯主の年収	世帯全体の年収
平成22年	402万円	484万円
平成17年	418万円	505万円

定年退職等により年収down
低所得化が進んでいる

- 2030年には30%程度の市場規模の縮小 ... ファミリー・若年単身の需要は大幅↓ しかし高齢単身の需要は大幅UP
- 新規入居高齢者の増加 ... サ高住等と比べ広く低廉な家賃であること、近居・同居の必要性など新たなニーズの発生

団地の地域医療福祉拠点化モデル



★多世代交流促進とミクストコミュニティ形成★

Aging in Place実現に当たっては、高齢者だけが集まった団地にするのではなく、**若者・子育て世帯など多様な世代が混在し、交流・共生するミクストコミュニティの形成**が必要。
(通常、高齢化率30-40%超で様々な問題が発生)

- 子育て世帯向けの家賃減額制度や近居割引制度
- 団地に居住し貢献活動をする大学生への地公体の入居配慮
- 高齢者と若者や子供のふれあいが促進される仕組みづくり



左上：高齢者と子供の交流促進(豊四季団地)
 上：キッズサポートクラブ(豊四季団地) 上：近居割引制度
 左：若者との交流促進(武里団地)

学校法人藤田学園との包括協定

- ・藤田保健衛生大学・藤田保健衛生大学病院との多分野での連携協力に関する包括協定締結



UR都市機構との包括協定

- ・超高齢社会に向けた団地の地域の医療福祉拠点化に向けて包括協定締結
- ・全国100団地拠点に選定



ICT 在宅医療・福祉統合ネットワーク「いきいき笑顔ネットワーク」の運用

- ・在宅医療介護連携へ向けたICTによる多職種連携チーム支援の推進
- ・名古屋大学医学部附属病院先端医療臨床支援研究センターによる技術支援



愛知県地域包括ケアモデル事業 (H26.4~H29.3 3ヶ年事業)

- ・医療・福祉一体提供モデルとして実施
- ・豊明市北部地域をモデル地域として特定し実施（けやまいきいきプロジェクト）

愛知県在宅医療連携拠点推進事業 (H26.1~H27.3 15ヶ月事業)

- ・在宅医療・介護連携事業を先行的に実施

健康福祉部

高齢者福祉課

介護保険係

高齢者係

地域ケア推進係

介護保険サービス、介護認定 等
課長補佐兼担当係長（事務職）
係員4（事務職2、看護師1、保健
師1）臨時職員3、認定調査員

高齢者福祉サービス 等
課長補佐兼担当係長（事務職）
係員1（事務職）

介護予防、在宅医療福祉連携、認知症対策、権利擁護、
地域包括支援センター支援、介護保険計画策定 等
担当係長（保健師、精神保健福祉士、ケアマネ）
係員1（保健師）
係員1（事務職）
臨時職員1（看護師）
臨時職員1（ケアマネジャー） **H25年度に新設**

- 少人数で多分野にわたる業務を行っている。市の職員定数削減計画がすすめられる中、増員は困難な現状。
- 多分野にわたる業務過多な反面、認知症対策と在宅医療・介護連携を一体的に事業展開できる、介護保険計画に反映しやすいといったメリットもある。
- マンパワーが不足している分、藤田保健衛生大学・名古屋大学・地域の医療福祉関係機関・地域包括支援センター等と積極的に協力連携体制を構築し、地域包括ケア体制づくりの推進エンジンとしている。

豊明市地域包括ケア連絡協議会

地域包括ケア体制構築に向けた各部会の取組状況の報告と課題の検討
平成26年4月設置 地域ケア会議の施策検討レベル会議として位置づけ

代表者会議

多職種人材育成研修 プログラム検討会

多職種連携や人材育成研修内容の協議
〔藤田保健衛生大学に委託〕

同職種勉強会

ケアマネ

訪問看護

訪問リハビリ

ICT医療福祉 連携部会

いきいき笑顔ネットワーク 運営委員会

定例ミーティング

名古屋大学医学部附属病院先端医療臨床研究支援センターサポートのもと、具体的取組について検討

入退院 調整部会

病院から在宅生活への移行時の関係機関同士の連絡調整情等について情報共有・体制整備

見守り生活 支援部会

見守り・生活支援の具体的なサービスや取組みについて、市民参加のもと検討

見守り生活支援 協議体

同職種による情報共有
医師会等の他団体との組織連携等



けやきいきいきプロジェクトが出来上がるまで①

時期	実施内容	参加者
4/15	地域懇談会 ・モデル事業について ・URとの協定締結について	団地自治会役員、高齢者福祉課
4/16	UR都市機構との包括協定締結	
4/22	豊明団地生活支援アドバイザー ヒアリング	生活支援アドバイザー、包括支援センター 高齢者福祉課
4/30	地域懇談会 ・藤田保健衛生大学の取り組み ・団地自治会の活動について	団地自治会役員、藤田保健衛生大学 高齢者福祉課
5/23	地域懇談会 ・意見交換	豊明市長、団地自治会役員、高齢者福祉課
5/29	第1回 検討会 ・見守りサポート事業について	団地自治会役員、藤田保健衛生大学 包括支援センター、UR都市機構、高齢者福 祉課

基本方針の明示



住民ニーズの把握



住民組織との意識
共有



推進プラットフォーム
組織結成の準備



けやきいきいきプロジェクトが出来上がるまで②

時期	実施内容	参加者
6月～	見守りサポート事業 開始	
8/6	第2回 検討会 ・高齢者アンケートについて	団地自治会役員、藤田保健衛生大学 包括支援センター、UR都市機構、高齢者福祉課
8/18～ 9/19	豊明団地高齢者アンケート	
10/9～	高齢者健康増進教室 開始	
10/14	第3回 検討会 ・アンケート結果報告 ・運営委員会(案)について	団地自治会役員、藤田保健衛生大学 包括支援センター、UR都市機構、高齢者福祉課
11月	地区医師会への説明 地域の医療機関へのヒアリング	藤田保健衛生大学、包括支援センター UR都市機構、高齢者福祉課

具体的な取り組み



住民ニーズの把握



協働事業の実施



推進プラットフォーム
組織への関係機関
の巻き込み



けやきいきいきプロジェクトが出来上がるまで③

時期	実施内容	
12/22	けやきいきいきプロジェクト運営委員会（第1回）	◆規約・今後の会議定例化スケジュール等を検討
1/23	けやきいきいきプロジェクト運営委員会（第2回）	◆「住み続けたい地域」洗い出しワークショップ実施
1/30 2/10	認知症サポーター養成講座 認知症徘徊模擬訓練	

推進プラットフォーム
組織の発足



住民の互助、関係
機関の共助へ

外出機会やコミュニティへの参加を促進し
地域でいきいきと暮らす高齢者の増加へ
〔高齢者健康増進事業
： 豊明市と藤田保健衛生大学の協働事業〕



見守りセンサー & 歩数計として
健康づくり教室にも活用。

歩数ランキングで
参加者の
モチベーションアップ



けやきいきいきプロジェクトが出来上がるまで④



けやきいきいきプロジェクト

プロジェクトにおける行政の役割

深化した地域包括ケアシステムの実現

- ・官民学及び市民・地域が一体となった取り組みによる地域包括ケアシステムの実現へ
- ・多分野コラボレーションによる発展的かつ地域密着な取り組みの実現へ

市の政策として取り組み継続推進

- ・第6期高齢者福祉・介護保険計画や第5期総合計画への反映により取り組みを継続的かつ公共性の高いものへ
- ・関係各課との調整を図ることで継続的かつ多分野における面的な展開を推進



けやきいきいきプロジェクト＝推進プラットフォームの整備

豊明市・藤田保健衛生大学・UR都市機構・団地自治会を中心に、日常生活圏域における関係者によるプロジェクトチーム＝地域包括ケアシステムづくりを推進するプラットフォームを整備

公共性・公平性の確保

- ・多様な住民ニーズを広く把握し反映
(高齢者ニーズ調査等の実施)
- ・広く公平に住民に取り組みを周知
(広報・回覧チラシ等の活用)

地域組織や関係団体 との連携調整

- ・地区医師会・自治会・民生委員などの地域の組織や関係団体との円滑な連携調整

客観的データ 評価指標の提供

- ・客観的データ・評価指標の提供
(行政との課題共有、取り組みの評価としての活用)

豊明団地

概要



- ・ 昭和40年代
高度経済成長期に建設
- ・ 5階建て 55棟
エレベーター無し
- ・ 団地居住 4,663人
- ・ 65～74歳 710人
75歳以上 387人
高齢化率 32.9%
(市内平均 23.6%)
- ・ 65歳以上独居者
約270人
- ・ 世帯数 2052

豊明団地の現状と課題



- 今後、老老世帯、独居世帯の増加予想
- 団地内診療所の医師が高齢（ 80歳代）
往診出来ず、後方支援必要



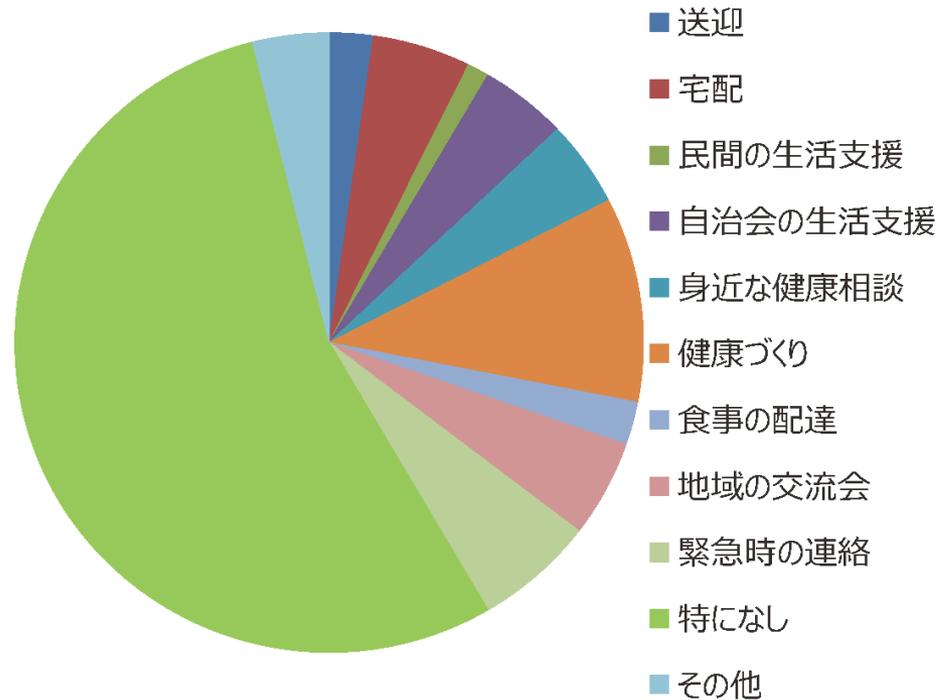
- 空店舗、空室の増加
- 外国人の居住者の増加
（ 1000人程度…実数把握できず）
- 子育て支援が無く、 保育所は満員
市内に病児病後児保育施設なし

団地高齢者アンケート

851名配布 回収率 46%

豊明団地の高齢者の生活ニーズを把握し、地域包括ケア整備策を検討するためにアンケート調査を実施
〔高齢者健康増進事業：藤田保健衛生大学との協働事業〕

■これから利用したいと思うサービス



過半数は「特になし」であるが

①送迎、宅配、生活支援、食事の配達といった「生活支援サービス」

②身近な健康相談、健康づくり、地域の交流会といった「地域交流・相談サービス」

③「緊急時の対応」

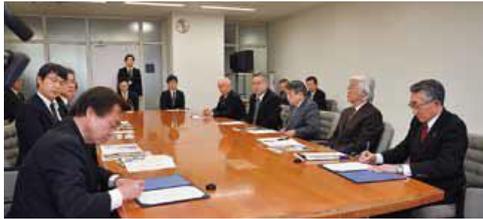
といったサービスを求める声が多かった。

※藤田保健衛生大学地域包括ケア中核センター分析より抜粋

藤田 × UR × 豊明市

藤田学園

藤田 × 豊明市との包括協定



藤田 × URとの包括協定



2014年

3者の包括協定締結

豊明市

豊明市 × URとの包括協定

UR

豊明団地内バリアフリーマップ作り

2014年4月～アセンブリ 地域包括ケア在宅医療研究班

団地内道路上のバリア（段差や階段など）を調査
歩きやすい散歩コースマップを作成、自治会から大好評



計算の設定 75歳 50kg 女性
歩く速さ 2.0km/時 歩幅 35cm

豊明団地健康ウォーキングマップ

2014.11.13
藤田保健衛生大学
地域包括ケア中核センター 作成

Aコース：「健康いきいきコース」

1周合計 880 m 2540 歩
25分 (61 kcal)



①横断歩道では車のスピードに注意。

300 m 870 歩
9分 (21 kcal)



バス停前
ベンチで休憩

190 m 540 歩
5分 (13 kcal)



階段D



②見通しの悪い横断歩道。



③きつい上り坂。

Bコース：点線コース

「ゆっくり散歩コース」
560 m 1600 歩
15分 (38 kcal)



④車の多いスーパー前

(ハ)きつい上り坂。



階段A



階段B



階段C



(イ)歩道狭い



豊明団地周辺 健康ウォーキングマップ

2014.11.13
藤田保健衛生大学
地域包括ケア中核センター 作成



紫色コース1周
700 m 2000 歩
20分 (50 kcal)

赤色コース
外回り1周
1000 m 3000 歩
30分 (70 kcal)

橙色コース
内回り1周
700 m 2000 歩
20分 (50 kcal)

水色コース1周
520 m 1500 歩
15分 (36 kcal)

緑色コース1周
700 m 2000 歩
20分 (50 kcal)

170 m 480 歩
5分 (11 kcal)

125 m 350 歩
3分 (9 kcal)

150 m 420 歩
4分 (10 kcal)

Aコース：
「健康いきいきコース」
1周合計 880 m 2540 歩
25分 (61 kcal)

団地内独居高齢者との交流

2014年4月～アSEMBリ 地域包括ケア在宅医療研究班

独居高齢者の食事会（自治会主催 年2回開催）に招待され
嚙下体操、会食、歌会を一緒に楽しむ



藤田保健衛生大学による「先進的地域包括ケア人材育成システム」

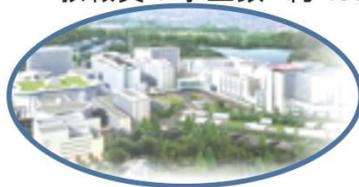
FRUT

Comprehensive community care project in Fujita, Residents, UR, and Toyoake city

2015年3月 学生30人居住開始

藤田保健衛生大学・病院

教職員+学生数 約4000人



藤田保健衛生大学
地域包括ケア中核センター

豊明団地みえる化

団地マップ作成



- ・バリアフリーマップ作成
- ・おすすめ散歩コース
- ・避難経路
- ・交流食事会

+

UR豊明団地

(住民 約4500人 2500戸 高齢化率32%
独居高齢者270人)

- ・空き部屋
- ・空き店舗の活用
- ・部屋の改装

IKEAコラボ



学生職員居住



学生・教職員 30~60人居住

- ・自治会イベント
- ・高齢者訪問・安否確認
- ・清掃、整理、災害時避難誘導
- ・生活の中で体験し学習する

参加・協力

+

豊明市

(人口約68000人 高齢化率23%)



- ・独居高齢者・認知症・外国人問題、病後児保育、障がい者・児支援
- ・団地周辺の活性化、健康増進

団地周辺の住民

自治会・民生委員の協力

医師会の協力

補助金支援

まちかど
保健室



常駐職員による相談・訪問

- ・看護師、薬剤師相談
- ・健康教室、体力測定
- ・在宅訪問相談
- ・実習拠点
- ・住民交流のサロン

住民の健康寿命の延伸に寄与する

地域包括ケアや在宅医療・介護を熟知した新しい医療人材の育成



学生・職員団地居住



豊明 3DK-ウ 特別改装モデルルーム 44-501

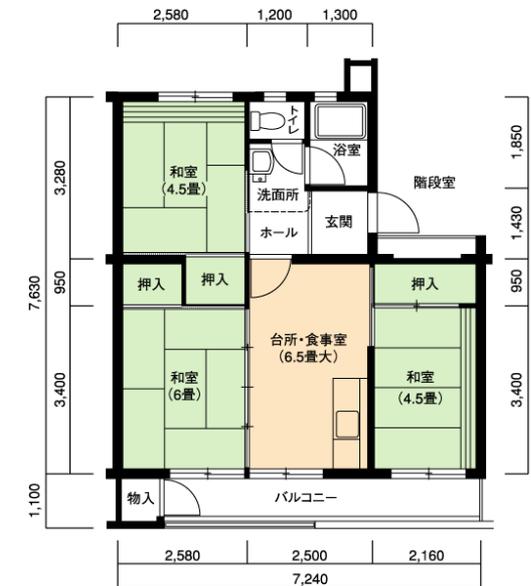
052豊明

3DK-ウ

●住宅床面積/49.03㎡

●バルコニー面積/7.04㎡

計 56.07㎡



- 2015年 3月 29 人居住開始
- 住民交流、地域貢献、
- 目的：高齢者問題を、団地に居住し実体験しながら学習する
- 高齢独居者訪問、安否確認、災害時の避難誘導、清掃活動

豊明団地 地域包括ケアモデル

全国初！ 藤田保健衛生大学 × UR団地 × 豊明市 × 自治会住民



ミクストコミュニティ：多種多世代により支え合う地域交流

持続可能な地域包括ケアモデルとなるよう、
「未来の在宅医療人材」を育成し、
「町のチカラ」を育成してゆきます！